

令和5年6月22日

日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

No. 197

「理科室のおじさん」を訪ねて2

日立市立東小沢小学校

今年、日立理科クラブは開設15周年を迎えました。「理科室のおじさん」にはこれまでに47人のエキスパートが務めてきました。開設時にもおじさんを紹介する記事の特集しましたが、この間に世代交代が進み、スタート時のメンバーは3人となりました。そこで、あらためて、「理科室のおじさんを訪ねて」を月1回のペースで連載し、25人のおじさんを紹介していきます。

今回は、東小沢小学校（宮田弘美校長先生）の香川伸夫さんです。香川さんは長年「理科室のおじさん」のまとめ役として、おじさんの役割を探し求めてきました。現在は、まとめ役はゆずり、「子どもたちを理科好きにする」をモットーに、理科室の環境整備や授業のお手伝いをしています。

香川さんは、石川県金沢市の出身ですが、生まれは台湾だそうです。お父さんが台湾で教員をした関係で、家族みんなで台北の近くに暮らしていたそうです。数年前に、当時を偲んで訪ねたことがあるそうです。お父さんが勤めていた学校では、お父さんの写真や書いたものがあって見せてくれたそうです。そして、その学校の校庭には今でもクスノキがあって、校長先生は、「このクスノキはお父さんを知っているし、あなたのことも知っていると思います。」と言ってくれたそうです。

理科クラブに入る前は、日立製作所日立工場検査部で鉄鋼機械設備／圧延機の試験運転調整でプロジェクトをまとめるため、国内はもちろん、海外出張も多かったそうです。

この日は、お昼休みを利用して、全校児童10人に「ヘロンの噴水」の実験を見せていました。噴水が上がると子どもたちから歓声が上がり、その後、「どうして上がるの」、「どうして止まるの」と疑問の声が多く寄せられました。少し難しい原理ですが丁寧に説明していました。香川さんは、子どもたちに、実験や体験を大切に、失敗を恐れず挑戦し、失敗から学んでほしいと思っているそうです。

理科室のおじさんは、「子どもたちと接すると気持ちがりフレッシュし、とても楽しい」と言っていました。今年の6月には大学生になった卒業生が教育実習生としてやってきました。もう卒業してから10年くらいたちますので、当時の先生方はいませんでしたが、香川さんのことをよく覚えていて、懐かしそうにあいさつしてくれたそうです。

理科室には、メダカが飼われていました。よく見ると、なんとクロメダカです。以前はどこの小川でも見られましたが、今では絶滅危惧種になっていて、なかなか見ることはできません。多くの学校では、ヒメダカを購入して観察していますが、東小沢小学校では何年も前からずっと飼育し教材にしているとのこと。自然環境のよさを示している例だと思います。

また、理科室には手作りのおもちゃや教材が展示されています。子どもたちはそれらを見たり、触れたりすることを通して、理科への興味を深めているように思いました。

最後に、東小沢小学校のよさを聞きました。「学校は家庭的で、先生も子どもたちもみんな家族のようだ」と言っていました。菜風蓮（さいふうれん）という太鼓も素晴らしく地域の宝物になっているそうです。



「理科室のおじさん」香川伸夫さん



理科室の掲示物・展示物



「ヘロンの噴水」実験を夢中でみる子どもたち



クロメダカが飼われている水槽